「第６期恵庭市生涯学習基本計画（案）」のパブリックコメントの意見募集結果及び意見に対する市の考え方について

1. 募集期間　令和８年１月７日（水）～２月５日（木）
2. 意見総数

持参	郵送	ファクス	電子申請	電子メール	意見箱	合計
0	0	0	2	0	0	2

3. 寄せられた意見（抜粋）

寄せられたご意見に対する考え方を以下のとおり説明いたします。

また、寄せられたご意見については、個人を特定する箇所やご意見以外の記述を除き、可能な限り原文のとおり掲載しております。

番号	寄せられた意見の概要	ご意見に対する恵庭市の考え方
1	恵庭市の生涯学習・社会教育は、ブックスタートをはじめ通学合宿・コミスクなど先駆的な取組を数多く展開しており、これらは他市町村の社会教育事業にも大きな影響を与えてきました。恵庭市の社会教育の質の高さは、これまでも関係者の間で広く認識されてきたものと感じております。 このたび、「第6期恵庭市生涯学習基本計画（案）」に関するパブリックコメントが募集されていることを知り、計画案を拝見いたしましたので、一市民としての感想および意見を述べさせていただきます。 本計画案は、第5期計画の丁寧な検証に加え、生涯学習推進に関するアンケート結果を踏まえた現状分析がなされており、その上で、目指す姿、基本目標、基本施策が体系的に整理された、非常に完成度の高い計画であると感じました。特に、「であい・学びあい・育ちあい」という基本理念は、恵庭市がこれまで大切にしてきた生涯学習の価値を的確に言語化したものだと思います。	社会教育士の活用・連携に関する貴重なご意見をありがとうございます。 本市としましても、「社会教育士」が地域の多様な主体の学びを支え、地域づくりへとつなげる大変重要な役割を担うものと認識しており、本計画の推進を通じて、学びあいの質と地域活動の持続性向上につながるような社会教育士との連携強化を図りたいと考えております。 いただいたご意見をふまえ、社会教育士との連携をより実効性のあるものとするため、以下のように取り組みの具体例を追記します。 【基本施策８ 学びあいをつなぐコーディネーターの連携】 （旧）❖社会教育士との連携

	そのうえで、本計画の実効性をさらに高める観点から、社会教育士の活用・連携について、より一層の位置付けの強化を期待し、意見を述べさせていただきます。 ご承知のとおり、2020 年度に新設された称号「社会教育士」は、社会教育の専門的知見を基盤に、地域の多様な主体と協働しながら、学びを地域づくりや市民活動へとつなぐ役割を担う人材です。社会教育士は、単に事業を企画・運営する存在にとどまらず、地域の声を丁寧に受け止め、長期的な視点で「人と人」「人と地域」「学びと実践」を結びつける、いわば学びあいを支える中核的なコーディネーターであると考えます。 本計画案では、「基本目標3『“育ちあい”へとひろがる　つながりを育む』」の「基本施策8 学びあいをつなぐコーディネーターの連携」において、社会教育士との連携が【主な取組の例】として位置付けられています。この点は、計画が目指す基本理念である「“あい”ひろがる未来へ　～であい　学びあい　育ちあい～」を具現化していく上で、極めて重要な視点であると考えます。 とりわけ、重点推進ポイントとして示されている「学びや活動をつなぎ、広げるネットワークづくり」や、「生涯学習は様々な人と交流できることが魅力の一つである」という市民の期待に応えていくためには、分野横断的な調整力や現場理解を有する人材の存在が不可欠です。その点において、社会教育士は、専門的知見と実践経験を併せ持ち、地域の多様な主体をつなぐ役割を担うことができる人材であり、今後の生涯学習推進体制の中核として、より積極的に位置付けていくことが望まれると考えます。 そこで、社会教育士との連携をより実効性のあるものとするため、以下の2点について提案いたします。 1　市内在住で社会教育士の称号を有する市民の把握と位置付けの明確化 現在、恵庭市内において社会教育士の称号を有する市民がどの程度存在しているのかは必ずしも明らかになっておらず、潜在的には相当数の有資格者が地域の中にいる可能性も考えられます。	（修正後）❖社会教育士との連携<u>（有資格者の現状把握、学習会や情報交換会の実施など）</u>

	そのため、市内に在住する社会教育士を把握し、その専門性や関心分野を整理することで、恵庭市における生涯学習・社会教育の人的資源を可視化できると考えます。これは、行政と市民との協働を進める上での重要な基盤になるものと思われます。 該当する市民については、新たな負担が過度に生じない方法として、既存の研修や交流の機会を活用し、任意の形で把握していくことにより、生涯学習・社会教育に関わる人材の可視化を段階的に進めていくことが有効ではないかと考えます。例えば、任意登録制や研修・交流会への参加を通じて把握するなど、市民の主体性を尊重した方法が考えられます。 2 社会教育士を核とした定期的な情報交換・交流の場の設定 社会教育士同士、さらには行政職員や他のコーディネーター等との継続的な情報交換や対話の場を設けることで、分野横断的な連携が進み、学びあいの質や地域活動の持続性の向上につながると考えます。 社会教育士の知見やネットワークを積極的に生かすことは、本計画が掲げる「であい」「学びあい」「育ちあい」を理念にとどめず、実践として地域に根付かせていくための有効な方策の一つになると考えます。 以上、一市民としての意見を述べさせていただきました。これらは、計画案の修正をお願いするものではありませんが、本計画のさらなる充実および推進に向けた参考としてご検討いただけましたら幸いです。 なお、すでに同様の取り組みが実施されている場合には、当方の認識不足による意見としてご容赦ください。	
2	1.⑶ 次期計画に向けてについて 恵庭市の生涯学習の現状として、特に以下のポイントに重点を置いて推進していくことが必要であると整理しました。の部分で、「子育て世帯や家族の介護を担っている人、外国人住民など、多忙かつ多様な市民の学びの支援」とありますが、「子育て世帯、家族の介護、外国人	1.⑶ 次期計画に向けてについて 貴重なご意見をありがとうございます。本市の生涯学習の現状について、恵庭市生涯学習推進協議会での熟議及び「恵庭市生涯学習推進に関するアンケート」の自由記載欄を参考に検証

	住民」の方々を挙げたのはどのような理由ですか？	したところ、「子育てや介護で時間的・経済的・精神的なゆとりがなく、自らの学習や活動に向き合えない」という声が多く寄せられました。加えて、現行計画策定時と比較して外国人住民が急増しているという本市の今日的な特徴を捉え、現状を整理したところです。 　今後は本計画に基づき、子育て世帯、家族の介護、外国人住民の方々をはじめとした多忙かつ多様な状況にある市民の学びの支援を一層進めて参ります。
	2. 基本目標1について 「成人期：急速に変化する社会に対応し、生活や仕事の向上につながる学び」は具体的にどのようなものでしょうか？企業内教育の推進に関する相談・支援の中身が知りたいです。また、成人期は高校生や若者を含めたとあるのに掲載写真が高齢者のパソコン基礎講座なのがちょっと残念かなと思いました。	2. 基本目標1について 　貴重なご意見をありがとうございます。基本目標1・基本施策1・❸成人期の学びは、例えばコミュニケーションやアンガーマネジメントに関する社会教育事業の実施のほか、就労支援につながる研修会の実施などを想定しています。また企業内教育の推進については、講師派遣の情報提供などの支援を想定していますが、研修内容に関する相談に応じて支援を進めて参ります。掲載写真の「パソコン基礎講座」は高齢者に限定した事業ではございませんが、いただいたご意見をふまえ、より分かりやすく伝わるよう、大学生が講師となり、共に学びあう「大学生によるスマホ教室」の事業写真に差し替えいたします。
	3.基本施策5 市民がつどい、学びあう教育施設の環境整備について 社会教育施設を中心とした市内関係施設の相談対応充実 とありますが、具体的にどんなイメージでしょうか？また、環境整備という点では、様々な年代が関わる生涯学習分野は人的	3.基本施策5 市民がつどい、学びあう教育施設の環境整備について 　貴重なご意見をありがとうございます。生涯学習を支援する

	環境も多分に含まれていると考えており、時代に合わせた関わり方や価値観の学び直しが都度必要と感じます。施設管理者側の学び直しのための具体策はありますか？	施設管理者側の学びが必要、というご意見はそのとおりであり、重要な視点と認識しております。指定管理者を含めた施設管理者に対し、利用者の学習や活動への支援も含めた職員研修を意識して実施するよう、施設を管理する各部署に対し生涯学習推進会議などを通じて周知し、推進を図って参ります。